

県内有数の広さを誇る水田に実る水稲



誕生 匝瑳市

匝瑳市自慢の九十九里海岸



海・みどり・ひとがはぐくむ
活力あるまちをめざして



匝瑳市長職務執行者
伊藤 正勝

本日、八日市場市と野栄町が合併し、人口4万2千余、面積101・78平方キロメートルの「匝瑳市」が誕生いたしました。顧みますと、合併への道のりは平坦なものではありませんでした。

匝瑳郡市1市2町の合併協議が白紙に戻って以来、新たな合併の推進について、さまざまな検討が重ねられる中で、旧来から生活圏を共にし、歴史や文化、さらには行政面でのつながりが深い、八日市場市と野栄町の合併が最良であるとの住民の声を受けて、議会のご同意を頂き、平成16年8月、八日市場市・野栄町合併協議会が設置されました。

以来、13回にわたる合併協議会におきまして、真摯な協議が行われ、本日、その成果が実を結んだところであります。

この記念すべき日を迎えるまでの間、特段のご尽力を賜りました関係各位に対し、深く感謝いたしますとともに、温かいご支援を賜りました両市町の住民の皆様から感謝を申し上げます。

市町村行政を取り巻く環境は、地方分権の推進と国・地方を通じた財政状況が著しく悪化する中で、本格的な少子・高齢化社会の到来など、ますます厳しさを増しており、行財政の効率化、行財政

能力の向上への早急な対応が求められています。

このように、多くの課題が山積する中で、私たちには、保健、医療、福祉の充実などの多様化する住民ニーズにこたえていく責務があります。

新生「匝瑳市」は、みどり豊かな下総台地の広大な丘陵と白砂青松の九十九里海岸に代表されるように、豊かな自然環境に恵まれています。

今後は、新市の住民が一丸となって、豊かな自然環境を活かし、そして、歴史と文化を融合させながら、伝統産業と新しい産業を連携させて活性化を図り、新市の将来像として掲げた「海・みどり・ひとがはぐくむ活力あるまち」をめざして、生活環境や福祉が充実した、多彩な魅力を持つ、活力ある「匝瑳市」を市民の皆様とともに創造して参りたいと考えております。

新しい市長が誕生するまでの限られた期間ではありますが、市長職務執行者としての職務を務めさせていただきますことになりました。

この間、全力を傾注して取り組む所存でございますので、市民の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。新生「匝瑳市」誕生にあたりましてのごあいさつといたします。

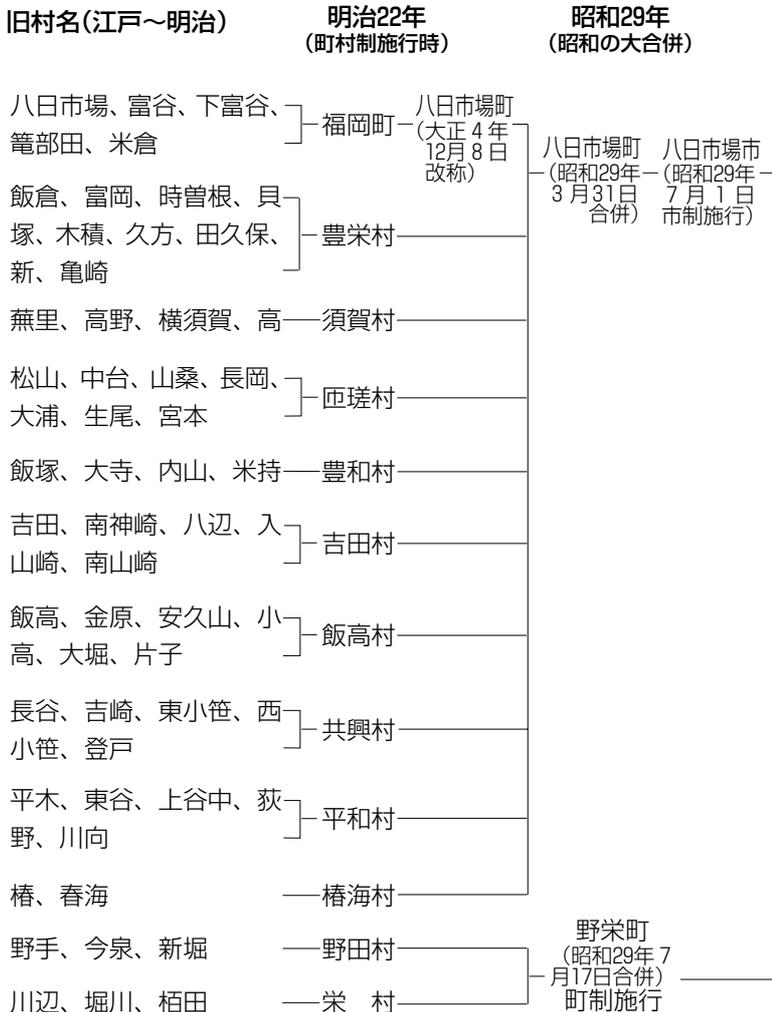
匝瑳市が誕生するまでの合併協議の経過

平成18年	平成17年	平成16年	平成15年
1月23日 匝瑳市誕生	3月5日 合併協定調印式 3月23日 八日市場市および野栄町の議会で合併議案を可決 3月25日 千葉県知事へ廃置分合の申請書を提出 4月6日 廃置分合に係る千葉県議会の議決 4月12日 千葉県知事による廃置分合の決定 5月13日 総務大臣による官報告示(合併の効力発生)	10月29日 第4回協議会において、新市の名称(匝瑳市)が決定 9月30日 第2回協議会において、合併の方式(新設合併)、合併の期日(平成18年1月23日)、事務所の位置(八日市場市役所の位置)が決定 8月9日 第1回八日市場市・野栄町合併協議会を開催 8月4日 知事に合併重点支援地域の指定を要請 8月1日 八日市場市・野栄町合併協議会(法定協議会)設置 7月30日 両市町の議会で臨時議会が開かれ、合併協議会設置案を議決 7月5日 八日市場市および野栄町の首長、議長が市町村合併について協議し、両市町による合併を推進することで一致 4月30日 八日市場市・光町・野栄町合併協議会解散 3月12日 光町が合併協議会からの離脱を表明	4月1日 八日市場市・光町・野栄町合併協議会(法定協議会)設置



調印後、ガッチリ手を取り合う両首長

匝瑳市誕生までの両市町の変遷



匝瑳(そうさ)の由来・語源について

匝瑳という地名は、現存のものでは、奈良東大寺正倉院に伝わる庸調(「ようちょう」)朝廷に納めた特産物)に見られる天平13年(741年)の記録が最も古いとされています。

匝瑳の由来は、平安時代前期の歴史書「続日本後記(しょくにほんこうき)」によれば、大化の改新(645年)の百年以上前、5世紀の終わりころから6世紀の初めにかけて、畿内(現在の近畿地方)の豪族であった物部小事(もののべのおごと)という人物が、坂東(ばんどう・現在の関東地方)を征した勲功によって、朝廷から下総国の一部を与えられ、匝瑳郡(さふさごおり)とし、小事の子孫が物部匝瑳(もののべのそうさ)氏を名乗ったと伝えられています。

匝瑳の語源については諸説あって定まっていませんが、930年代に編纂された漢和(百科)辞典である「倭名類聚抄(わみょうるいじゅうしょう)、略して倭名抄(わみょうしょう)」には、狭布佐(さふさ)と書かれています。「狭」は美しい、「布佐」は麻の意で、美しい麻のとれる土地であったことから、狭布佐(さふさ)が転じて匝瑳(そうさ)になったと考えられています。

なお、漢和辞典によれば、漢字の「匝」は訓読みで匝(めぐ)ると読み、一巡りして帰るという意味があり、「瑳」は訓読みで瑳(あざ)やか、あるいは瑳(みが)くと読み、あざやかで美しいという意味があります。

匝瑳市(平成18年1月23日合併)